

# 平成30年度 防災講演会 ～今日から始めよう 防災ご近所物語～

## <実施概要>

- 日時 平成30年7月4日(水) 18時～20時
- 場所 西区役所3階 3AB会議室
- 参加者 50名
- 講演 「大震災と自主防災活動」
- 講師 瀬戸 元(せと はじめ)氏  
(元両石町内会長 災害伝承語り部)



## ≪講演のまとめ≫

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」において、経験された津波によるご自身や周辺の被災状況や体験談から、防災への取組や心構え等をご講演いただきました。

### ◎ 東日本大震災の発災時や避難について

前半は、瀬戸先生ご自身が撮影された3月11日の釜石市の津波の映像を見ながら、津波の恐ろしさを教えていただきました。防波堤が崩壊し、本来逃げる場所として指定した避難場所も津波に飲み込まれたことや、その後の避難生活の厳しさを伺いました。

### ◎ 組織としての事前の備え

後半は、防災活動の信念として「**防災力とは、イメージ力である**」と、災害に備え行われた様々な活動を「横浜市防災市民憲章」を交えながら、ご紹介いただきました。

町内会における防災活動について、災害が発生したらどうなるのかをイメージしながら進めていく必要があります。実際に瀬戸先生の自治会町内会では要援護者を交えた防災訓練を行い、要援護者も災害時にどう行動すればよいのか学ぶことが大切であるとのことでした。

また、津波警報がでてから早くて30分には津波が到達するということから、町内会独自に「15分ルール」として、最初の15分は事前にペアを組んだ援護者が要援護者を救助し、残り15分で避難するというルールを設けたそうです。

### ◎ 経験を踏まえて

様々な取り組みを行ったうえで、忘れてはならないのが「**命てんでんこ**」の教えでもある自分の命を守ることが最優先で、鬼にならなければならない時もあると、震災をご経験された瀬戸先生だからこそその厳しい部分も語っていただきました。経験を踏まえ、改めて地域に根付いた教えを守ることや防災意識を皆が共有することの大切さ等を教えていただくことができました。



参加者の声

「災害時要援護者名簿を作成したい、または活用したい」(10名)

「援護者にも要援護者にもどう避難すべきか日頃から考える意識を持たせる必要を感じた」  
「これからは地区の人たちと何か月に1回くらいは防災訓練が必要ではないかと思う。もう一度、避難場所や避難方法を若い世代や高齢者とともに全体で確認したい」  
「イメージ、訓練の大切さを痛感」

講演テーマに関連する区役所の取組として、「災害時要援護者名簿の活用」、「あんしんカード」、「ふれあい会」をご紹介させていただきました。

災害時に生きる、地域の中の顔の見える関係づくりを進めるツールとしてご活用いただきたいと思います。

詳細につきましてご質問等ある場合は西区 福祉保健課(045-320-8437)までご連絡ください。

